

天幕への思い

今から、七年前の話になります。

ある日の町の総会で、「天幕を直す」と自治会長さんからお話がありました。戸数四十軒足らずの町なのに、出来るのだろうかと思いました。

天幕は、掛塚の屋台の中では一番目を引く部分でもあります。明治三十二年の屋台焼失から、百十九年かかってようやく屋台の全てが完成する、先代の人達が少しずつ培って制作して来た屋台であればこそ、ここまできたのだから完成させなければならぬとの思いで、天幕の製作が始まりました。

株式会社四季祭（繊維製品の製造・販売業）の柴原功様の紹介により、工房げしの下司三子様を紹介されてびっくりしました。京繻（きょうぬい）（京都の刺繻）の女性伝統工芸士なんです。京繻の超一流の工芸士さんに、作ってもらえるなんて信じられない！（ちなみにお父様は、福田喜三郎、お兄様は福田喜重（人間国宝）。それから、剣士の着物の部分は、正倉院の古代柄を制作した物があるからそれを使う事となり、これにもびっくり。さらに、制作中の福岡県の戸畑祇園大山笠の刺繻に金物が使われていたので、これを使ってみようという事で、金物を付けることになりました。そこで、京都には立派な金物士であるモリモト社寺工芸社の森本靖三様が、何の因果かわかりませんが、いろいろな方々を紹介され、ご縁に導かれ大勢の人の手を借りたことにより、今、天幕が完成しました。

株式会社四季祭 柴原功様、中條晴繁様、工房げし 下司三子様、下司浩生様、モリモト社寺工芸社 森本靖三様、森本章大様、磐田市文化財課 高梨課長、江間様、その他ご尽力下さった大勢の方々に感謝致します。

最後に、天幕の完成を待たずに他界された町の方々へ、完成のご報告を申し上げます。

南総里見八犬伝とは？

江戸時代、曲亭馬琴が二十八年の歳月をかけて完成させた、百六冊にわたる長編読本である。

室町時代後期、安房の国（現在の千葉県）を治める里見義実（さとみよしざね）は、隣国の安西景連（あんざいかげつら）の軍勢に攻め込まれ落城寸前に

おちいつていた。飼犬の八房（やつふさ）に「敵将の首を取ってきたら娘の伏姫（ふせひめ）を嫁につかわす。」とたわむれに告げたところ、八房は、見事景連の首をくわえて戻ってきた。伏姫は、「いかに相手が畜生と言えど、約束を違えてはならない」と八房とともに、山中の岩屋にこもる。その伏姫を救い出そうと忠臣、金鏡大輔が

姫を救い出そうとするが果たせず、姫は自害してしまう。その時、姫が胸にかけていた数珠玉に仁義八行の文字がそれぞれ浮かび上がり、八方へ飛散する。

その後、時と場所を変え、文字が浮かび上がる球を持った若者たちの苦難と愛情や友情の物語が展開され、不思議な縁で結ばれた若者たち八人が集い、里見家を救い繁栄の基礎を作りあげた物語である。

株式会社四季祭

制作者

柴原 功

中條晴繁

工房げし

下司三子

下司浩生

モリモト社寺工芸社

森本靖三

森本章大

発行 静岡県磐田市掛塚田町 自治会天幕制作委員

田組 天幕完成披露

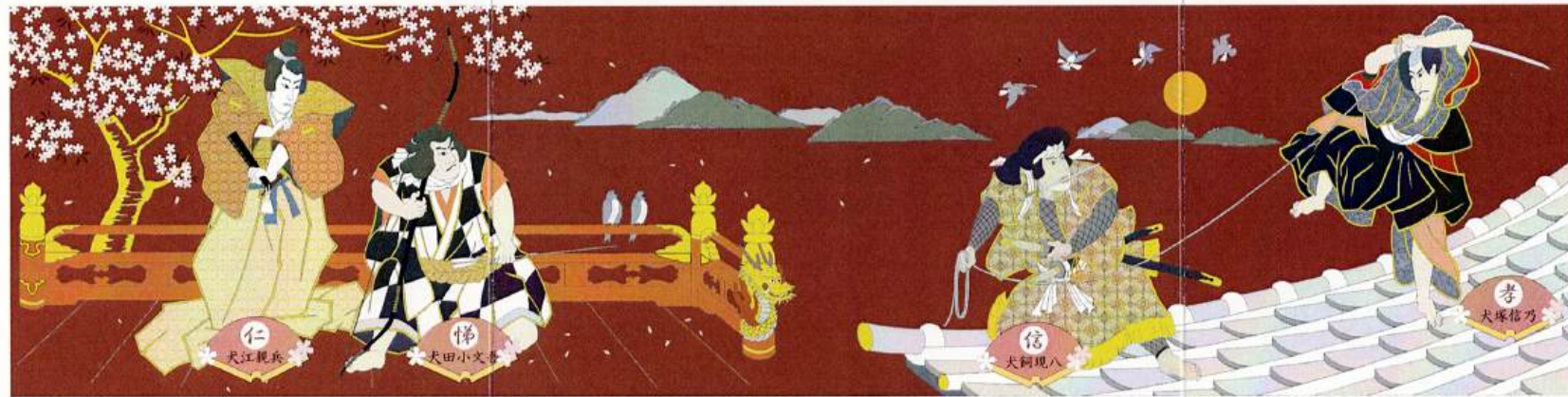
南総里見八犬伝絵巻

令和元年拾月吉日



親兵と小文吾は、桜舞い散る城内より、芳流閣の捕り物を見る。

現八と信乃の捕り物は、長き時間がたちすでに遠き山に日が落ちてしまう、そんな場面。



芳流閣決闘の図

悌 犬田小文吾 悌順
いぬたこぶんご やすより
★ 悌：兄弟の敬愛

仁 犬江親兵 衛仁
いぬえしんべえ まさし
★ 仁：徳、思いやり

禮 犬村大角 礼儀
いぬむらだいかく まさのり
★ 礼：礼儀

智 犬坂毛野 胤智
いぬさかけの たねとも
★ 智：知恵



犬飼現八 信道
いぬかいげんぱち のぶみち
★ 信：真実、信頼

犬塚信乃 戌孝
いぬづかし のりたか
★ 孝：親孝行

犬川莊助 義任
いぬかわそうすけ よしとう
★ 義：正義

犬山道節 忠与
いぬやまどうせつ ただとも
★ 忠：忠誠

伏姫と八房の図



夜桜の月の、ほのかな明かりの中、大角が経を唱える。じっと見守る毛野、置き灯籠の明りで、妖艶に映る。

火遁の術を使う道節、炎の動きをじっと見つめている莊助・・・にらみ合いがつづく。

園塚山打合いの図